

『高齢者にやさしい携帯電話とは？』社会参加学習の試み^{*}

ーサービス・ラーニングとアントレプレナー教育の方法を取り入れて、社会対応力を培うー

東京都立八潮高等学校教諭 宮崎 猛

ね ら い

- 1 日本の社会福祉制度を多様な立場から理解させ、その現状や課題を多角的に考察させる。
- 2 他者との交流や他者への貢献を通して、愛他的心を育成するとともに、社会の一員として自らの在り方を自覚させる。
- 3 問題解決のための技能を習得させ、社会的な問題を自らの意思で主体的に改善するための能力と態度を培う。

展開の特色

- 1 本実践は、サービス・ラーニングとアントレプレナー教育の方法を参照して行った社会参加型の学習であり、選択「現代社会」の内容の一部に取り入れたものを紹介している。
- 2 サービス・ラーニングは、アメリカで近年取り入れられている指導方法で、振り返り学習を有効に取り入れることによって、地域に役立つ体験的な活動と教科の学習内容を統合させることをねらいとしたものである。
- 3 アントレプレナー教育は、一般に起業家教育といわれるもので、狭義には起業家や起業家精神を育成するものであるが、広義には将来の目標を獲得させたり、社会のさまざまな場面で必要な提案力や企画力、コミュニケーション能力などの問題解決能力を身につけさせようとするものである。
- 4 本実践の特色は、サービス・ラーニングとアントレプレナー教育の方法を取り入れ、「他者に貢献する活動」「社会をよりよく改善するための活動」「教科の学習活動（内容）」を有機的に関連づけることによって、それぞれの活動を相互に補完・発展させ、それぞれの活動がもつ教育効果をより発揮させることを目指したところにある。

構 成

	テ ー マ	概 要
1	総論：「福祉の視点」を考える	高齢化社会の現実と身の回りのユニバーサルデザインについて考える。
2	高齢者・障害者に必要な情報環境 ー高校生と高齢者の便利と不便ー	携帯電話の便利なところと不便なところをKJ法で分類する。
3	高齢者に優しい携帯電話とは①	高齢者に優しい携帯電話を検討する。
4	高齢者に優しい携帯電話とは②	高齢者に優しい携帯電話を設計する。
5	高齢者に優しい携帯電話とは③ ー専門家から意見を聞くー	携帯電話会社N社から2名の社員の方を招き、携帯電話各社の高齢者や障害者に対する取り組みを聞くとともに、設計した内容を検討する。
6	高齢者・障害者の目線でみたら？ ー擬似未来体験ー	2人一組のペアで、器具を装着し、高齢者体験を行う。

memo・注 ^{*}本実践は、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科廣江彰教授の支援を受けて行ったものである。

事例の 位置付け	実 施 学 年	第3学年	☆高等学校各学年	☆中学校
	教 科 等	選択 現代社会	☆現代社会 政治・経済 ☆総合的な学習の時間	☆社会科 選択社会 ☆総合的な学習の時間
	単 元 名	これからの福祉社会		

	テ ー マ	概 要
7	老いとは？	読み物を通して「老い」の理解を深める。
8	福祉現場で困っていること発見① ー福祉施設の見学と車いす体験ー	福祉施設を見学し、車いすの操作やブラインドウォークを2人一組で行う。
9	福祉現場で困っていること発見② ー福祉施設体験の振り返りー	前時の体験を振り返る。
10	福祉現場で困っていること発見③ ー高齢者との交流ー	福祉施設で高齢者から昔の遊びや浴衣の着付けなどを教わり、交流する。
11	福祉現場で困っていること発見④ ー高齢者との交流ー	高齢者にとっての携帯電話の必要性を調査するとともに、使い方を紹介しながら交流する。
12	困っていること解決隊① ー高校生の提案ー	福祉施設での体験を振り返り、高齢者に役立つ携帯電話の機能や使い方、デザインなどを検討する。
13	困っていること解決隊② ー実現可能性のチェックー	前時の検討事項について、携帯電話会社の社員の方を招き、実現可能性等について検討する。
14	困っていること解決隊③ ー高校生の提案ー	前時の検討事項をもとに、再度福祉施設を訪問し、高齢者の実態や願いをもとに実現可能性を検討する。
15	困っていること解決隊④ ー高校生の提案ー	これまで学習してきたことを振り返り、何を学んできたか、提案すべきことは何か、提案を実現するためには、今後何が必要かなどについて話し合う。
16	発表資料作成	前時の話し合いをもとに発表準備する。
17	最終報告会	施設の職員の方、携帯電話会社の社員の方などを招き、発表報告を行う。

授業の実際

第1回 「福祉の視点」を考える
ー高齢化社会の現実と身の回りのユニバーサルデザインー

概 要
高齢化社会の進展と身のまわりのユニバーサルデザインなどについて、コンピュータ企業のホームページなどを参照させながら理解・考察させた。

振り返りレポートより
人口の話聞いて、これからの社会は高齢化が進み、そうなるとどうなるのかという話で、とても不安になった。高齢化ということは、高齢者を介護するのは高齢者ということになる。また、少子化で学校がなくなったりして

しまうし、その後の社会の人口も不安定になる。私は、介護を必要とする人に何ができるかばかりを考えていたけれど、介護を必要としないように前々から努力するという考え方もあるのだということが分かった。大きな問題を日本が抱えているということを改めて考えさせられた。

第2回 高齢者・障害者に必要な情報環境 ―高校生と高齢者の便利と不便―

概要

①携帯電話の便利なところ不便なところをK J法で分類させた。生徒は以下のような項目をあげた。

便利なところ

- 1. 場所・時間からの自由
- 2. 多機能がひとつ
- 3. 拡張機能（お金の代わり等）
- 4. たくさんの交友関係をもつことができる。
- 5. メールならではの会話ができる。

不便なところ

- 1. 拘束される。
- 2. 電池、充電の煩雑さ
- 3. 迷惑メール
- 4. 音声の聞きにくさ
- 5. 通じない場所があること

②次に上記の問題が高校生だけの問題か、一般的な問題か、高齢者にとってはどうであるのかなどのテーマで検討させた。

第3回 高齢者に優しい携帯電話とは①

概要

①高齢者はどのようなコミュニケーションを求めているか？

②高齢者に必要な携帯電話の機能は？

などの課題について議論させ、高齢者にやさしい携帯電話を考察させた。

生徒A	生徒B	生徒C	生徒D	生徒E	生徒F	生徒G	生徒H
・文字が大きい。	・軽ければいい。	・機能が覚えにくい。	・押すボタンを大きくする。	・必要な機能は最小限にする。	・操作がし易い。	・字が大きい（見やすい）。	・形状を色々にする。
・シンプルで簡単	・画面が大きい。	・字が小さい。	・複雑な機能はつけない。	・小さくなくても軽ければいい。		・声が大きい。	例：ヘッドフォン
・ボタンが大きくて押しやすい。	（字が見やすい。）	・ボタン一つでかけられるといい。	・画面が大きい。	・画面が大きい。	・老眼に対応した画面にする。	・機能が簡単	型、腕時計型、指輪型など
・声でメールを読ん	・ボタンが押しやすい。		・ラジオが聞きたい。	・ラジオが聞きたい。	・通話中の声をはっきりと大きくしてほしい。		

memo・注



でくれる。			モゴモゴを完璧になくす。	・メールもやってみたいので、メールの機能をわかりやすく簡単に。		
・声が聞きやすい。						

第4回 高齢者に優しい携帯電話を設計する（ ワークシート（→p.359）参照）

第5回 高齢者に優しい携帯電話とは③―専門家から意見を聞く―

概要

携帯電話会社から2名の社員の方を招き、携帯電話各社の高齢者や障害者に対する取り組みを聞くとともに、生徒の提案について検討を行った。授業は次のような内容で進められた。

①携帯電話会社の高齢者や障害者に対する取り組みについて話を聞く。

―製品の機能や店舗のサービス態勢、他社の取り組みとの違いなどについて

②高齢者向け携帯を実際に使ってみる。

③生徒が考えてきた「高齢者に優しい携帯電話」の設計について検討する。

④今日の授業を受けて、「高齢者に優しい携帯電話」を再検討する。

＊④は課題とし、1週間後に提出させることにした。それは本日招いた講師の方に郵送した。



第6回 高齢者・障害者の目線でみたら?―疑似未来体験―

概要

2人一組のペアで、器具を装着し、高齢者体験を行った。

振り返りレポートより

今回、疑似体験をして色々なことを考えさせられた。耳せんをして、目の前もほぼ暗くて手足の関節も固定した状態での階段の下りはとても辛かった。まっすぐ降りることができなくて、手すりや杖でよろよろしながら降りた。

校外は大変だった。何回か後ろから「チリンチリン」と自転車のベルを鳴らされて、でもどっちに寄っていいかわからないし、のろのろしてしまってC君に助けもらった。こう考えると普段外を歩いているおじいちゃん、おばあちゃんにベルを鳴らすのは避けようと思う。鳴られると自分は焦るし、歩いている方は大変だった。今回の体験はとてもためになることばかりで、すごくいい経験になった。

第7回 「老いるとは？」―読み物を通して「老い」への理解を深める―

概要

写真集『おじいちゃん』をもとに加齢の現実やその課題を身近な問題,自分自身の問題として捉えさせるようにした。

第8回 福祉の現場で困っていること発見①―福祉施設の見学と車いす体験―

概要

福祉施設を見学し, 車いすの操作やブラインドウォークを2人一組で行った。

第9回 福祉の現場で困っていること発見②―福祉施設の見学と車いす体験の振り返り―

振り返りレポートより

老人ホームの印象は思っていたのとちがった。みんな仲良しだし, 笑っているしほのぼのとしているなあと感じました。施設の中で一番印象が強かったのはお風呂場でした。体が自分で動かせないひとでも, 機械によってお風呂に入れるのはすごいと思った。また, みんなも生活しやすい環境がたくさんあって, 安心して毎日を過ごすことができると思う。

車いすの体験は, 本格的に体験したのは今回が初めてだったので少し緊張してしまいました。(中略) 他人に車いすを押してもらうのはけっこう怖かったです。自分の体は, 自分の思い通りに動かすことができるけど, 他人にはやはりある程度遠慮してしまうところがあると思います。それが今回のような「体験」ならば, 一時的なものだから, まあいいとしても, 日常生活でそうなるとストレスがたまってしまう人も多いのではないかと思います。やはり車いすに乗っている人とその車いすを押す人とは信頼関係が必要だと思いました。私が将来, 車いすを押すことになれば, お互いに信頼できる仲になればよいと思いました。

第10回 福祉の現場で困っていること発見③―高齢者との交流―

概要

2人一組になって, 入居者の部屋を訪問し, 施設での生活の様子を聞いたり, 昔の遊びなどを教わったりして交流した。

振り返りレポートより

老人ホームに行ったこともなかったし, 最初は50分も何を話したらいいのだろうって頭の中で色々考えていた。しかし, その不安はすぐなくなりました。すごく楽しかった。

話が盛り上がり, Tさんは, 鼻から酸素を取り入れる器具をつけていて, あんまり話を続けさせると酸素不足ではあはあしてしまうと聞いていたので, 続けて話をさせないように気をつけた。(中略) ご飯のとき以外は部屋で過ごすそうだが, 職員の人数が少ないために, 一人ひとりの部屋に回って話をしてくれることはないそうだ。介護福祉士の人が実際には少ないことがよく分かった。もし, ホームに個人的にいけるのなら, 私が行って, Tさんとか他の人の話も聞いてあげたいとも思った。

あとTさんは絵が上手で多趣味だった。自分の趣味があることはすごくいいことだと思う。逆に考えれば, 話し相手がなく, それしかすることがないのかなって悲しくなった。色々な趣味の人がいるので, もっと視野を広げ, 話題を増やして, 仲良くしたいと思った。

第11回 福祉の現場で困っていること発見④―高齢者との交流―

概要

高齢者にとっての携帯電話の必要性を調査するとともに, 使い方を紹介しながら交流する。

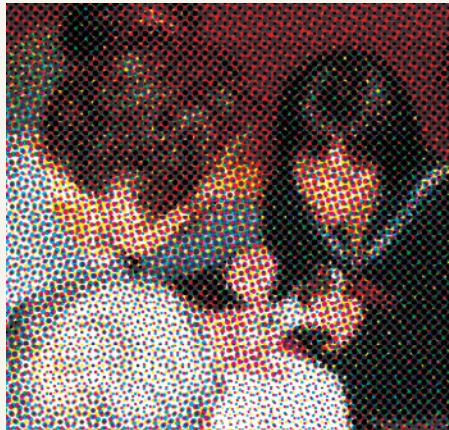
memo・注



振り返りレポートより

最初は携帯を触ることさえ拒んでいたのに, 説明がはじまると, すぐにわくわくした顔に変わってきた。子どもみたいで無邪気だった。実際, はじめはあまり手を出そうとしなかった人もみんなが携帯を触っていたら自然と輪の中に入ってきてくれたような気がする。何よりもうれしかったのは, 最後の一言で「携帯ほしいって思いました!今日は楽しかったです!!」って言ってくれたのは本当に最高の気持ちになりました。

自分の携帯にメモったこと・・・「難しい」「ボタンが押しにくい」「分かりにくい」「みんなと話ができるのはいい」「便利で重宝になる」「パソコンみたい, 覚えたい」「もちたい・やってみたい」「練習したらできそう」「写真などいろんな機能がある」



第12回 困っていること解決隊①―高校生の提案―

概要

高齢者施設での体験を振り返り, 高齢者に役立つ携帯電話の機能や使い方, デザインなどを検討した。

＜検討された内容＞

機能別	改善案
音 声	・通話音量をもっと大きく。 ・補聴器付きの携帯
形 状	・携帯の幅をもっと広くしないと持ちにくそう (ボタンを人差し指で押すので, 持ち方が形状になじまない)。 ・よく使う機能は画面外でボタンなどで操作できるように。 ・老眼鏡のような機能を付けて使いやすく。 ・ボタンが押しづらいので押しやすく。
文 字	・文字・数字が小さすぎるのももっと大きく。メールが打てない。 ・文字・数字の大きさを調整可能に。
機 能	・機能を覚えやすく。 ・事故で腕を失ったり, 腕の機能が使えない場合の音声反応操作機能 ・どこで聞き, どこで話すかが分かりにくいので, 分かりやすく。 ・電話帳の見方をもっと分かりやすく。 ・操作ガイドが自動表示され, それにしたがって操作すればよい。

第13回～第17回省略

評価の観点

【社会的事象への関心・意欲態度】

- 1 高齢化社会の現実やその課題に関心を示したか。
- 2 社会をよりよく改善しようとする意欲をもち、高齢者の利便性を高めた携帯電話を考案することができたか。

【社会的事象への知識・理解】

- 1 バリアフリーやノーマライゼーションなどの概念を現実社会に適応させながら理解することができたか。

【資料活用の技能・表現】

- 1 課題を発見し、それを改善するための技能を身につけることができたか。
- 2 自らの体験を踏まえて、多様な資料を活用し、発表することができたか。

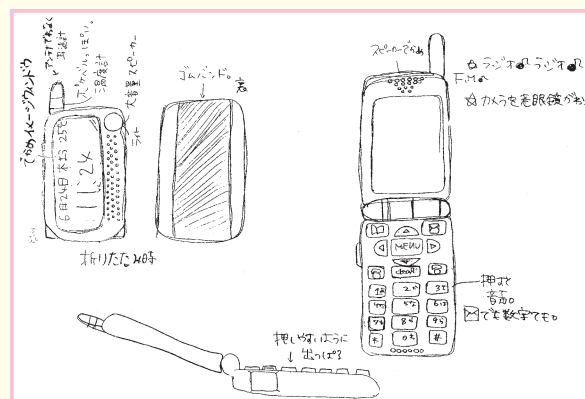
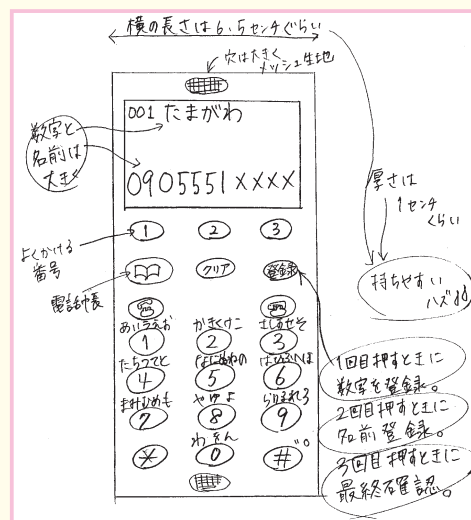
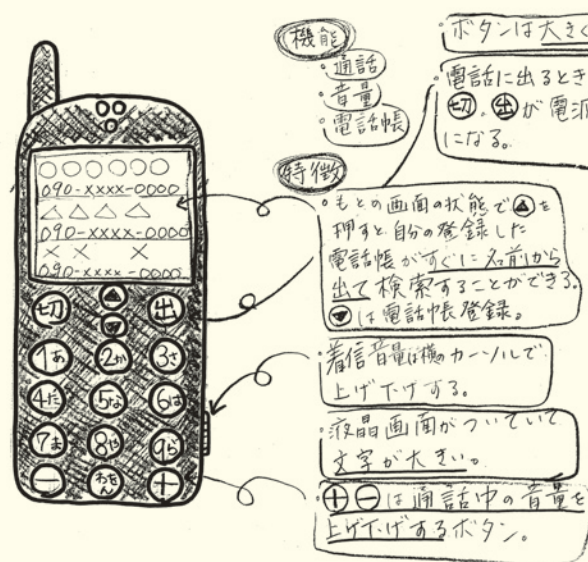
【社会的な思考・判断】

- 1 高齢化社会の課題を的確に捉え、その解決の方策を考えることができたか。

参考資料

- ☆ 宮崎猛「アメリカにおける『サービス・ラーニング』の動向と意義」日本社会科教育学会『社会科教育研究』第80号、1998年、pp.33-39
- ☆ 宮崎猛編著『ボランティア・奉仕活動オール実践ガイド』明治図書出版、2002年
- ☆ マーク・ジュリー／ダン・ジュリー、重兼裕子訳『おじいちゃん』春秋社、1999年

資料 生徒の考えた高齢者向け機能のある携帯電話



第4回「高齢者に優しい携帯電話を設計する」で使用



ワークシート

現代社会 課題

高齢者に優しい携帯電話を考えよう!

1. 想定している高齢者のイメージ、キャラクターは?年齢や状況など

普段、どんな生活をしているのか。どんなことが不自由と思っているのか。実際に不自由なのか。どんなことができれば、より便利に楽しく生活ができるかなど自由に。

例) 70歳、男性

耳が少し遠くなってきている。足腰は丈夫で、ハイキングなどにも平気で出かける。リタイアして5年になる。地元のボランティア活動にも参加し、囲碁クラブに入っている。仕事はしていない。年金暮らし。携帯電話はもっていないが、知り合いは多い…など。

2. その人にとって役立つ携帯とは

絵を描いて、重さ、機能や材質、形状、配置、色、画面の大きさ・明るさなど…についての説明を入れる。

3. その携帯の意義や課題

こんなところがこれまでと違って役立つ。実現にはこんなところが課題など。